

会 議 録

1 会議名

令和5年度 第6回三郷区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

（1）地域活性化の方向性に基づいた自主的審議事項の検討について

3 開催日時

令和5年9月26日（火） 午後6時30分から午後7時26分まで

4 開催場所

三郷地区公民館 集会室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く。）の氏名（敬称略）

- ・ 委 員：竹内浩行（会長）、伊藤善一（副会長）、保坂裕子（副会長）
市村 学、小山和美、荳戸 正、平田 清、平田伸一、吉田一彦、
渡部弘美（欠席者2人）
- ・ 事務局：南部まちづくりセンター 大島所長、滝澤副所長、石黒係長、難波主任

8 発言の内容

【難波主任】

- ・ 伊藤光夫委員、山口委員を除く10人の出席があり、上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告
- ・ 同条例第8条第1項の規定により、議長は竹内会長が務めることを報告

【竹内会長】

- ・ 会議の開会を宣言
- ・ 会議録の確認：吉田委員、渡部委員に依頼
次第2「議題等の確認」について、事務局に説明を求める。

【滝澤副所長】

- ・ 配布資料の確認
- ・ 次第に基づき、議題の確認

【竹内会長】

事務局の説明について、質問のある委員の発言を求めるがなし。

— 次第3 議題（1）地域活性化の方向性に基づいた自主的審議事項の検討について —

【竹内会長】

次第3 議題（1）地域活性化の方向性に基づいた自主的審議事項の検討についてに入る。

事務局より説明を求める。

【難波主任】

- ・ 当日配布資料No.1 により説明

【竹内会長】

ただいま説明があったように、今後の協議の進め方の正副会長の案としては、三郷小学校の統廃合や跡地利用については、地域協議会としての協議はしないこととした。「三郷小学校の統合問題を考える会」が動き出しており「考える会」の検討状況を注視していただきたい。「考える会」には地域協議会委員の約半数が参加しており、既に活動をしていただいているところである。統廃合について地域の方向性が出た段階で、私たちにできることが出てくるであろうと思っている。

また、今後の協議の方針として、もう一つのキーワードである「イベント開催、リーダー育成」の実現に向け、地域内での解決に向けた活動を目指して協議を進めていくことを提案する。以前、各種団体等との意見交換を通じて「地域活性化の方向性」を定めた経緯もある。イベント開催とリーダー育成は、これからの三郷区を動かすための大きな原動力になり得ると思っており、人材育成は重要な課題だと考えている。これらについて、意見や質問を求める。

【平田伸一委員】

資料に記載されている「今後の協議の考え方」には「②小学校の跡地利用については、統廃合を了解することが前提となるため、協議できない」と書かれている。私も最初はこのように思っていた。しかし、よく考えてみたら違うのではないか。まず、三郷地区の将来や地域づくりのために必要なことを考えていくべきである。それには、小学校の統廃合の問題は全く関係ない。地域づくりと絡めて三郷小学校の役割や今までどのような機能があったのか、これからその機能をどのようにカバーするのかという議論をしていかなければならない。

三郷地区のこれからの地域づくり、まちづくりを考えていく上で課題が出てくるが、小学校の統廃合の問題はその課題の中の一つだと思う。だから、地域づくり、まちづくりを考えるためには、協議できないのではなく協議していかななくてはならないと思う。地域づくりのために小学校がどうあるべきか、どうあってほしいかが見えてきた段階で、小学校の統廃合を判断しなければならない。単に小学校の統廃合の問題を議論するのではなくて、地域づくり、まちづくりとの関連を考えることも必要だと思う。将来の地域づくりを考える際、三郷小学校の跡地の利用は大切なポイントになってくる。まちづくりの方向性として、統廃合に関係なく三郷小学校をどのように利用するか、校舎やグラウンドをどのように有効利用していくかは、我々が考えていかなければならないと思う。それをここで協議できないと言い切るべきではない。統廃合について、地域の合意がなされるまで協議できないのではなく、地域づくり、まちづくりのために三郷小学校はどうあって欲しいのかを考えていかないと、本当の意味での統廃合とは何なのかを地域の人たちに理解してもらえないと思う。「三郷小学校の統廃合問題を考える会」が住民を対象にアンケートを行い、回答者のうち70%が統廃合に賛成だという結果が出ているが「考える会」に積極的に参加して回答した住民もいれば、一方で参加することなく回答した住民もたくさんいる。要するに、統廃合の実質、中身が十分に理解されていない中での70%の賛成である。その理解を掘り起こしていくには、まちづくりとは何かということと、三郷小学校がなくなったらどうするのかということも議論していかないと、地域の人に本当の意味での理解を得

られないと思う。

地域協議会もそのような視点で関わってほしい。イベント開催やリーダー育成が必要と言い切っているが、それは単なる事業の方向である。その先に地域づくり、まちづくりという大きな目標があって、その実現のためにイベント開催やリーダー育成が必要だということであり、どのテーマもみな関連がある。

【竹内会長】

平田伸一委員の意見について、ごもっともと感じる。まちづくり、地域づくりという視点でも誰もが三郷小学校は大事だと思っているのではないか。資料には正副会長の今後の協議の考え方の案を示してあるが、協議できないと言い切ってしまう書き方はよくなかった。渡部委員どうか。

【渡部委員】

ただ今の平田伸一委員の意見は、地域協議会ではなく「考える会」の会議の場で言うべきである。まちづくりという視点では、地域協議会には限られた時間の中で行わなければならないことがあるので、小学校に関する議論は「考える会」に任せたいほうがよい。アンケート結果の70%の賛成率は、一つの指標であり覆すことはできないと思う。この結果を信用して先に進まなければならない。明日開催される「考える会」の会議で話されたらどうか。

【平田伸一委員】

おっしゃるとおりである。考えをもっと整理して明日、話すつもりである。地域協議会委員の役割は、三郷地区をどうしていきたいのかという展望を話し合うことだと思う。そういった展望は、地域協議会で話していくべきだと理解している。

【竹内会長】

市村委員どうか。

【市村委員】

前回と前々回の協議会には仕事のため出席できなかったが、議事録を拝見したのでどのような話し合いが行われたのか承知している。それを踏まえて今回の資料に記載されている「今後の協議の考え方」を見たが、今後どのような三郷地区になっていったらよいかは、以前に「地域活性化の方向性」を決定するまでの過程で既に

議論しているので、その方向性に対してどのような活動をしていくのがよいのかを考えていけばよいと思う。

三郷小学校の統廃合については「考える会」で議論してもらえばよい。「今後の協議の考え方」の②の「小学校の跡地利用について」という部分の「跡地」という書き方がよくないと思う。三郷小学校の「敷地」について、どのように活用していけば地域が活性していくのかを「地域活性化の方向性」の構成要素と絡めて考えていけばよいのではないか。

【竹内会長】

跡地利用という言い方をすると、どうしても統廃合後の話になるので、跡地利用については協議できないという書き方にした。地域の意向がはっきりしない限りは、我々としては動けないと感じたという理由もある。荏戸委員どうか。

【荏戸委員】

もともと「地域活性化の方向性」に基づいて出てきたものなので、もう一度その方向性へ立ち返って議論するのもよいのではないか。

【竹内会長】

平田清委員どうか。

【平田清委員】

統廃合の問題については、前回の協議会でも話したとおり地域協議会で決めることではないと思う。平田伸一委員が言われたように、小学校に関する方向性については、地域協議会で検討することを考えてもよいのではないか。小学校の統廃合の問題がなぜこれほどに揉めているのかというと、上越市が明確な方向性を持っておらず「児童の人数が減ったから統廃合をしよう」としか言わないからである。市が「人数がこれくらい減ったら統合したい」と地域住民に言えないことが原因だと思う。「上越市の統廃合の考え方をもっとしっかり示してください」という意見書を出す方法はあると思う。

小学校の跡地の利用については、現存する校舎をどのように利用していくかをこの協議会でいろいろ考えてもよいと思っている。第4回協議会のグループワークの際、私のグループでは小学校が統廃合され校舎が空いたらどうするべきか、統廃合

の決定後に協議会で議論しても遅くなるので、統廃合すると仮定したうえで跡地をどうするかを考えてもよいのではないかという意見を出した。まだ決定していなくても意見を出せると思う。

【竹内会長】

吉田委員どうか。

【吉田委員】

資料に記載されている「今後の協議の考え方」の②の「統廃合を了解することが前提となるため、協議できない」ということと③の「統廃合する場合に備える」ということが矛盾していると思う。私も今後、統廃合が決まった際にいつ諮問があっても対応できるようにすべきだと思っている。③の統廃合する場合の諮問、答申に備えて意見書の提出等を考えるのも一つの案ではないか。

【竹内会長】

小山委員どうか。

【小山委員】

特にない。

【竹内会長】

平田清委員から意見があった、統廃合の前に意見書を出すことは地域協議会として可能なのか。

【大島所長】

先ほど、市が統廃合の明確な方向性を示すことができていないので、その考え方をはっきりしてほしいという旨の意見書を出すという意見をいただいた。教育委員会としては、教育環境を一つの判断の基準としていて、このままだと何年後には複式学級が発生する状況になるということを目安にしていると思う。それが平田清委員にとって考え方がはっきりしていないということだと思うが、まずその辺りに市側の考え方と委員側の受け取り方に少し食い違いがあるものと思う。考え方がはっきりしていないのかどうかについては、教育委員会にも釈明する余地があると思うので、意見書を出せるか否かは簡単に答えが出るものではないと思う。

【平田清委員】

確かに、本来この三郷区地域協議会は、三郷地区に関することを協議する機関であり上越市全体の問題を協議するべきではないことは理解できる。ただ、先ほど言ったとおり市の明確な方向性が見えない現状がある。これくらい児童の人数が減ったら統廃合するという基準は、その地域の大きさや特性が様々なため、一律に決めるわけにはいかない事情があるのはもちろん理解できるが、今の1歳児が7年後には小学校に入学しているといった人数は全て把握できるし、3年後にその学年の児童が10人くらい一気に増えるということは有り得ない。だから、そのような人数の見込みを踏まえてこのくらい人数が減り、将来的に閉校になるという見通しが立つはずであるし、どの時点で地域に対してその情報を出すのかは決められると思う。そのことを疑問に思ったので発言した。ここは、三郷区の地域協議会なので市全体の問題に関する意見書を出すか出さないかはこだわらない。

【竹内会長】

保坂副会長どうか。

【保坂副会長】

資料に記載の②の「協議できない」という言葉だが「今現在は協議できない」ととらえている。「地域協議会の役割として協議できない」ということではないととらえている。「考える会」で統廃合について結論が出た際には、跡地の利用について考えなければならないと思うが、私たちの残りの任期の中でどの程度の議論ができるのかという思いもある。このため、地域内での課題解決に向けて、あるいは地域づくりのために④のイベント開催やリーダー育成について、私たちが知恵を出し合っ
て来年度に向けて方向付けをしていけたらよい。

【竹内会長】

伊藤副会長どうか。

【伊藤副会長】

私も保坂副会長と似た意見だが、②の跡地の利用の問題については「考える会」でも協議がされると思う。この問題については、地域協議会委員も「考える会」に参加してそこで意見、アイデア等を出すことにすれば、地域協議会では別のことを協議できるのではないかと。地域協議会では三郷地区でどのようなイベントを実施

すれば地域の人が集まれる場となるかを考えるべきで、その人が集まる場所づくりのためには、イベントを主導できる人材を見つけることが必要になる。また、三郷まちづくり振興会などの地域の団体と一緒に三郷地区の中のリーダーを育てることも大事だと思う。それらを考えていけば、仮に小学校が統廃合されなくなった場合でも、また三郷区の地域活性化を可能にする人やイベント等についてもよい案が出るのではないか。

【竹内会長】

皆さんから様々な意見をいただいた。小学校の統廃合の問題に対しては「考える会」が大きく動き出しており、それは地域にとってすごくよいことだと思う。私は、「考える会」にも当然参加しているが、その地域の動きを大事にしたい。保坂副会長が言ったように、地域協議会として協議しないのではなく、今はできないが、できるタイミングは今後必ずあるし、そのときに皆さんと議論すべきものであらうと思っている。

【平田伸一委員】

資料に記載の①に「考える会」が合意形成を検討しているため、地域協議会としての協議はしないと書いてある。これは、本来は私たち地域協議会委員の立場でなければならぬことを「考える会」へ委任しているように感じる。この考え方で進めてよいが、本当に私たちが委員としての責任を果たしたことになるのか疑問である。地域協議会委員と「考える会」ではメンバーと組織が違うため、立場も当然違う。そのことも考えてほしい。

【竹内会長】

私たちは、地域協議会に課せられた任務を果たさなければならないが「考える会」にも参加しなければその動きがなかなか見えない。平田伸一委員が言ったように、責任を果たすために「考える会」にも参加して情報共有すれば、そこで地域協議会として考えるべき意見がまた出てくるのではないか。「考える会」の今後の動向を見守り、学校に関しては統合だけではなく施設の利用方法なども含めて一緒に議論していくことができればよい。

【平田伸一委員】

私も三郷まちづくり振興会の役員として「考える会」に参画しているが、この会のメンバーは主に町内会長協議会と地域協議会委員で構成されていると聞いている。町内会長協議会からは11人の町内会長が全員入っている。一方、地域協議会は有志の委員のみが入っている。三役はもちろん入っているが、委員は全員ではない。だから地域協議会の「考える会」との関わり方として、委員が全員参加するかどうかを協議してもよいのではないか。そのような協議は今までしてこなかった。「考える会」ではこれまでに会議を3回くらい行っているが、そのような話が出たことは全くない。2、3回前の地域協議会の時点で「委員の全員が参加しましょう」という提案なり積極的な意見があっただけだと思ったが、そのような意見も出ていない。

【竹内会長】

もともと参加している三役としては「考える会」で得た情報をこの協議会の中で共有していけばよいと考え、それを受けて賛同した委員が参加してくれたところである。協議会で私から「皆さん参加してください」と発言していないことは確かである。個人によって考え方が異なっており、参加せず外から見ること大事だという人もいるし、参加して雰囲気味わうのがよいという人もいる。このため、参加を強制することはできないと感じていた。

【大島所長】

補足する。第5回協議会で渡部委員から「可能であれば地域協議会の皆さんにも考える会に入っていたきたい」という発言があったので、そのような議論が全くなかったわけではない。その際に皆さんがどのように感じられたか、受けとめられたかということである。

【平田伸一委員】

資料に「考える会」が合意形成を検討しているため、地域協議会としての協議はしないと書いてあるが、地域協議会から参加しているメンバーの意向が「考える会」での議論に加わるから協議しなくてよいということなのか。

【竹内会長】

「考える会」には、三役と一部の委員が参加している。渡部委員も一般住民とし

て参加いただいている。私は、地域協議会委員という立場で入るよりも、一般住民としての立場で参画していただいたほうがよいと思っている。地域協議会委員という立場で入ると、委員として見られてしまう。私も本来は、地域協議会の会長としてではなく一般住民として入りたかった。

【渡部委員】

三郷小学校を会場にした市の説明会があり参加したが、来場した住民が30人程度であったので、その際に「三郷のことを考えている人はいないのだね」と町内会長協議会長に言った。また「もしこの先、統廃合問題を考える会を発足させるのであれば、今日発言した若い世代の男性たちを参加させてください」とも言った。だから「考える会」は、一般住民の参加を重視しているのだと思う。私も小山委員も一般住民として参加した。メンバーが町内会長と地域協議会委員ばかりであったら、一般住民は発言しにくいと思うが、三郷のことを考える気持ちがあれば、一般住民としての参加でよいのではないか。そこに肩書きは必要ないと思っている。

【竹内会長】

少し話が脱線しているが、今後、我々が協議するにあたり重要なポイントだと思う。渡部委員から発言があったように、三郷のことを考える気持ちがなければ参画しないし、気持ちがあっても地域協議会委員としての立場があり、なかなか行動に移せないこともあると思っている。今後の「考える会」での協議に参加してほしいという意見も出たが「考える会」の会長からは、「いつでも参画してよい」と聞いている。今後、統廃合の問題だけではなく他の様々な問題についても協議することができればよい。私から「皆さん参加してください」と強制的なことを言うつもりはない。

資料に記載の「今後の協議の考え方」の文言について、指摘をいろいろいただいたが、今後行うべきことを考えると、この考え方で進めてよいと思う。今後は、イベント開催やリーダー育成についての協議を進めていきたいと思っているがいかがか。小学校の統廃合の問題は、新たな動きがあった段階で議論していけばよいと思っており、議論すべきものがたくさん発生すれば、またそのときに考えていけばよいと思う。今後、イベント開催、地域に関わるリーダー育成の実現に向けて協議

する中で解決したい課題は出てくるが、現時点での解決したい課題として小学校の問題もあるし、各種団体が抱えている問題もある。規模が小さく資金がない団体に対して「行政のこのような支援があるからこういったことができる」という情報を共有して各種団体を育てていくことができればよい。各種団体の課題は、多々あると聞いているがリーダーとして盛んに活躍している三郷区の若者もいる。そのような現状を一つ一つ聞きながら進めたい。町内会長協議会も然りで、課題を抱えていると聞いている。今後はそのような地域の団体の方向性も見据えてリーダー育成、イベント開催等に向けて協議していきたい。資料に記載の「今後の協議の考え方」の①から④は、今後はこのように進めていきたいという正副会長と事務局の案である。今後はリーダー育成、イベント開催について、地域内での解決に向けた活動を目指して協議を進めていくことにしたいがよろしいか。

（「よし」を確認）

今後は「今後の協議の考え方」のとおり協議を進め、イベント開催やリーダー育成の実現のために具体的にどんな取組が考えられるかという論点も出てくるが、地域で実際に活動している団体等の諸問題の解決のために意見交換等をしていかなければならないと思っている。このようなリーダー育成の方法があるとか、このようなことをしたいといった意見があれば、いただければありがたい。

（特に意見なし）

特になければ、まず過去に開催した地域協議会との意見交換会に参加していただいた各種団体との意見交換等が考えられる。各種団体の課題について意見交換しながら、イベントを開催できる環境づくりをどのように支援できるか、議論していくことができればよい。本日いただいた意見は貴重なものである。小学校の問題に限らず地域には様々な課題があるので、今後とも地域に足を運んで情報を集めていただければありがたい。

他に意見を求めるがなし。

本日いただいた意見等を取りまとめ、今後の協議につなげていきたい。明日は「考える会」の会議もあるので、そこでどのような方向性が出たか、皆さんにも情報をつなぎたい。

以上で、次第3議題（1）地域活性化の方向性に基づいた自主的審議事項の検討についてを終了する。

— 次第4 事務連絡 —

【竹内会長】

次第4 事務連絡に入る。事務局より説明を求める。

【滝澤副所長】

- ・第7回地域協議会：10月30日（月） 午後6時30分から 三郷地区公民館
- ・第8回地域協議会：11月28日（火） 午後6時30分から 三郷地区公民館
- ・その他の配布物： 令和4年度地域活動支援事業事例集のご案内
高士区、安塚区、大湊区地域協議会の意見書
諏訪区、浦川原区地域協議会の「地域活性化の方向性」
男女共同参画推進センターのチラシ 2種類

【竹内会長】

事務局の説明について、質問のある委員の発言を求めるがなし。

各地域協議会の意見書に対し、市からの回答が出た場合、我々がそれを見ることはできるのか。

【滝澤副所長】

ホームページに掲載しており、随時更新されるのでそちらで確認いただきたい。

【竹内会長】

承知した。

【竹内会長】

本日の議題は全て終了した。

- ・会議の閉会を宣言

10 問合せ先

総合政策部 地域政策課 南部まちづくりセンター

TEL : 025-522-8831 (直通)

E-mail : nanbu-machi@city.joetsu.lg.jp

1.1 その他

別添の会議資料もあわせて御覧ください。